

No

日本、歐美犯罪後シヤウ「ハシ」、「ヒ・チー」、「ハシゴ」
收容所於此停滯事項

口供考

余、本籍地モホク、ウジドアリハスルハウスナル王國陸軍醫隊、ヨリ
一、ホーリス・マイヤー中佐ハ宣誓シ上左通り陳述ス。
一、余ハ五四三年二月合日本軍、停戦トリヒヤフ、種々、收容所並ニ
病院ニ居テ後遂ニ九四五年五月三日ヒヤフ島ハンドル、エルオーラー
ランドソニア收容所移サム。此、收容所ニ於ケル一般事情ハ主トナ
全然語ヘマニテ居タニ概シテ甚シ要カラタ。此、收容所ハ元ハ言
主十名、少年ヲ收容ス様達ラシテ少年感化院アリタ、私共が此
收容所ニ週回程居テ後次、收容所ハ四十名水ニ停戦が監禁
サシテ居。勿論衛生設備全不充份テ水、供給モ又不足テヤツ。

、食物不充分アリ、時が経ツテ次第供給量が減ツテ行ツ
タ、當時日本軍ニトモ食糧供給ハヨリ困難テ、アシタが物々が買ツ
事ヲ許サセタ時酒保ヲ通シテ購入得アモ、カラ貰テモ食糧得ラ
ヒ事ヘ知ツタ。日本官憲ハ集団懲罰トニテ屢々長期向酒保
用鎮シテニハ勿論其ハ酒保ヲ食糧ヲ買フコトハ度々許サセタケン。

三、醫療品・支給ハドク不充分ナシツクガ其を著フ得ラニ事ハ明テカ
ガシ。日本軍ハ特ニ糖尿病者ニ不スリソラ支給スニ事ヲ拒ヘ
日本降伏後イソリニ共ニシテ量般醫療品が收容所ニ積メ入ス
タ。同其上日本軍(現地ニ到着シテ)ホトチ社醫藥品ヲ極ク小量シカ
支給シテ歸シカク。降伏後ホトチ社支給品が多量收容所内ニ積メ

DOC 5788

シマリ。之等ハ收容所、外ニシマリテアシタ、テアリ。收容所、外ニ宣ケ近
クニ医易ニ使用ニ得ル病院アリタニ病院、設備全ツテ不充合テ
アツメ

四、此收容所、信厚連、僕、日本衛兵三打アル又非常ニ寒キカク
時モ拘ラズ半ズボンアリ終夜アリ膝マツカセラシニ寺、微ベ四部ラズ
ク。此岸得主ト日本人責任者分シヤマニ信長アル。松久入此、住
長ハ。 酒保カニ莫大不法利得ヲ得居タル信ズル。斯時船舶
用エシニニ故、繩シタ智識ヲ有シテ居停車、名前ヲ要セサシク時、
英人停車、名前ヲモ與ハタシス。其結果全停車ハ壁立サセラシ、
又少征上、將校ハ森マサウ、曾長立則、壁立サセラシ彼握拳テ
彼等ヲ打シ、私モ先往英國軍將校アルサド、空軍中佐モソノ中
三合マリキタ。多く、將校、意識失ヒテ倒シ。私ハ奥座モ左町ツ
クシアルヤハ、空軍中佐ハ頸骨ヲ折ラシ、カニアニ信長、此殴打、
元ガバナカシムが彼が信長森ニシタ傷ツク報告、改ニ此殴打、
責任大部分ハ彼ニシタト私心ナシテナス。

私ハ一九四五八年五月十五日、日本降伏時、テ此收容所ニ居タ。一九五年八
月九日即ち日本降伏後日本軍ハ赤十字を未スト言シテ多額、金ヲ支給。
此、金ヲ彼等ハ相當長期間持シ居事ハ疑フ餘地ガナ。然シ物々ハ
金が日本軍ノ手中アリし理由がアツク為ニ私心ナシ将校ハ度々
要求シテモ彼等ハ某ヒ一度モ營房ニ支給ス事アシカタ。然シハ
監獄樂や余分、食物ヲ購入スルニ以金ハ非常ニ用アシケンアル。

No 3

Doc 5788

ニ・カジエ・キセイ(署名)

前記ハリ・オーリス・キセイ三條日本一九四六年一月二日
ウエストミンスター市スマリーランドアーバン六番地
ニ於て宣誓せり。

余ノ面前於テ

英國陸軍省法務組合監督法務官

少佐アーヴィング・ウルフ(署名)

之件供書原文、其正本を本件ヲ證明ス
法務組合監督法務官
大尉ラスクリーク(署名)